

注意障害に対し二重課題に着目した 介入を行い家庭内役割を再獲得した症例

聖稜リハビリテーション病院リハビリテーション部

内藤祐馬・大木圭介・吉田昂生・栗本由美

key word 家庭内役割 二重課題 注意機能

はじめに

今回、脳挫傷により注意機能の低下を呈した患者を担当する機会を得た。

注意障害に対し、二つの課題を同時に行い、注意の転換、分配を促す二重課題動作に重点を置き介入を進めた。

その結果、目標とした家事動作再開に至ったためここに紹介する。

症例紹介

【一般情報】

年齢：70歳代前半 性別：女性

【医学的情報】

診断名：脳挫傷(前頭葉)

既往歴：両膝OA(右HTO,左TKA施行)
軽度認知症

【社会的情報】

病前生活：屋内独歩,屋外T-cane自立
既往により外出機会が減少

家族：夫・長男夫婦と5人暮らし

家庭内役割：家事全般

経過・介入

初期評価

中間評価

最終評価

経過月

1カ月

2ヶ月

3ヶ月

4か月

5か月

6ヶ月

移動手段

車椅子

歩行器

T-cane

独歩

介助量

介助

見守り

自立

自立

自立

二重課題
家事訓練 開始

中間～最終評価までを記載し考察する

中間評価

バランス能力

BBS:48/56点

FRT:29.5cm

高次脳機能

MMSE: 23点

TMT-A: 63秒

TMT-B:274秒

家事動作

掃除

洗濯物

食器運び

不可

移動場面での転倒リスクあり

歩行の安定性が低下

障害物への気づきが低下

中間評価

歩行評価

TUG

時間: 12.6秒

歩数: 22歩

10m歩行

時間: 12.4秒

歩数: 23歩



暗算課題あり

D-TUG

時間: 16.7秒 (+4.1秒)

歩数: 26歩 (+4歩)

D-10m歩行

時間: 15.2秒 (+2.8秒)

歩数: 27歩 (+4歩)

目標設定

病前生活

屋内の活動が主であった

家庭内役割は家事に限定

HOPE

家族：
「また家事をしてほしい」

本人：
「家の事をやりたい」

目標：家事動作の再開

家事再開に向けた問題点

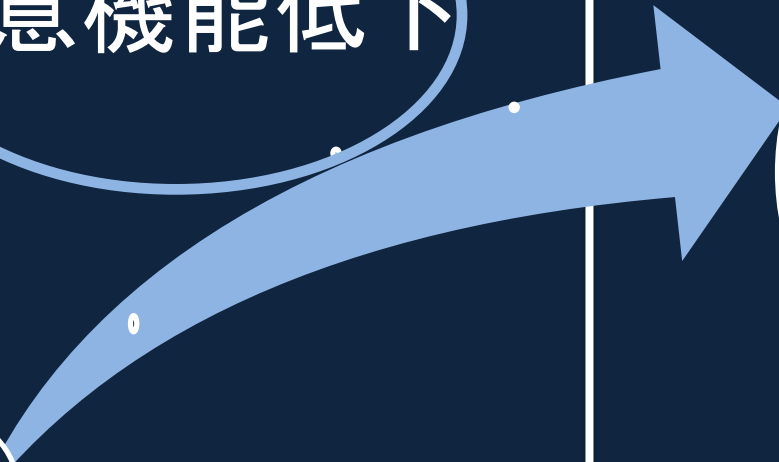
～家事の遂行～

注意機能低下

小

移動の転倒
リスク

大



二重課題の介入

姿勢課題

内容

歩行
方向転換
段差昇降
またぎ動作



認知課題

暗算
目印を辿る
お盆上のコップ運び
すれ違う人の勘定

工夫

能力に合わせ2つの課題の難易度を調節

家事動作の介入

家事動作を練習する

内容

洗濯物をしまう
部屋の掃除, 整頓整頓
食器、コップを洗い場に運ぶ

工夫

危険な動作の評価
最低限の指示: 道具, 手順, 方法は本人が考える
出来栄えや作業の効率を要求

最終評価

バランス能力

BBS:50/56点

FRT:30.5cm

高次脳機能

MMSE: 23点

TMT-A: 58秒

TMT-B:260秒

家事動作

掃除

洗濯物

食器運び

自立

最終評価

歩行評価

TUG

時間: 12.7秒

歩数: 19歩

10m歩行

時間: 11.2秒

歩数: 22歩



暗算課題あり

D-TUG

時間: 15.1秒 (+2.4秒)

歩数: 21歩 (+2歩)

D-10m歩行

時間: 12.5秒 (+1.3秒)

歩数: 24歩 (+2歩)

考察①

二重課題の改善

注意容量の増加

- 課題に対してより多くの注意を払える

注意分配の改善

- 認知課題よりも姿勢保持を優先して行える

動作技能の向上

- 課題に要する注意量が少なくなった

考察②

家事動作の改善

家事達成のために必要な事を
考えながら姿勢を保持できる

「部屋をきれいにするには・・・」
「食器を安全に運ぶには・・・」
「洗濯物をかたすには・・・」

移動・家事動作

- ・目標を立てる
- ・方法を選択
- ・効率的な実行

注意機能

まとめ・反省

歩行
バランス能力



+注意機能

家事動作



+環境変化

自宅での家事再開

反省点

環境の変化により退院後
部分的に家族の介助

入院時の外出訓練
自宅での設定が不足